

## 特集 1

外国につながる子どもたちの進路保障—小中学校の支援を経て高校、大学へ

(上智大学グローバル・コンサーン研究所/JSPS「課題設定による先導的人文学・社会科学  
研究推進事業 実社会対応プログラム」共催シンポジウム記録)

### 報告 3-1 自分と同じ境遇の子どもたちのために

大川ヘナン

こんにちは、大川ヘナンです。今、大阪大学の大学院で、主に日本にいる外国人の子ども  
の教育問題について研究をしています。私はどちらかというとジョアンさんとは逆とい  
いますか、ヒーローに出会わなかった方の生徒で、8歳の時に日本に来て、先に親が出稼  
ぎとして日本に来ていたので、その後におばあちゃんと一緒に来ました。で小学校の時に  
日本を転々として、高校の時に名古屋の高校に入ったのですが、あまり良い高校ではなく  
て、中学校の段階で名古屋に引っ越したのですが、学校では僕だけが外国人で、先生もそ  
ういった外国人のためのサポートみたいなのも全く知らない状況でした。そのあと高校に  
入り、勉強はずっとできなかつたんですけど、大学進学は周りの友達もみんなしていたん  
ですが、私はお金がなくて進学できず、その時にちょうどブラジルに戻ればブラジルの大  
学に進学できるかと思って実際に帰ったら、教育を全部日本で小学校から受けていたの  
で、向こうでも大学に入れなかつたんですよ。歴史とかそういったものも全部こっちで  
勉強していたので。向こうでもうまくやっていけず、友達はいなかつたですし、そうい  
った話が理解できる人もいなくて、そこから日本に自分で戻ってきて、1年間アルバイトを  
して、まあもちろんその時には予備校に通うお金や時間もなくて、簡単に入れて学費が安  
い大学を選んで受験したという感じですね。その時に、外国人枠という入試枠があつたん  
ですけども、僕が小学校2年生、8歳の時に来ていたので、そういった枠も活用できなく  
て、帰国生枠はできるのかときいたらそれも出来ず、まあ簡単に定員割れしてそんな大学  
を狙って入ったという感じですね。けれど大学に入ってから勉強が好きになって、そこ  
でいろんな奨学金をいただけて、アメリカにも行かせていただいて、その後は日本の商社で、  
留学で学んだ英語とポルトガル語と日本語を生かして、海外とビジネスをしていたので  
すが、やはり自分みたいに苦しい状況にいる子どもたちというのが僕1人じゃないという  
のが心の中にはあって、それに気づいたからには何かをしたいという思いからもう一度大学  
院に入って今それに対して自分にできる取り組みを考えているところです。以上です。

大川ヘナン (おおかわ へなん) (大阪大学大学院)